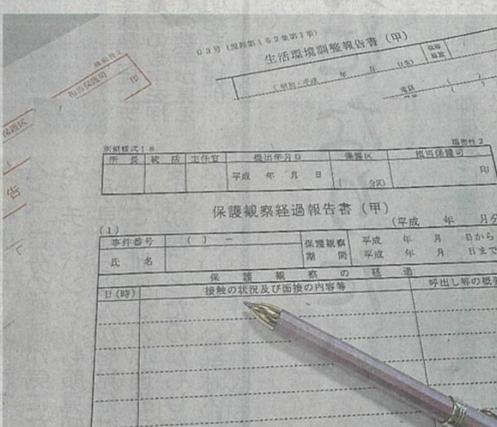




保護司を務める田園調布学園大子ども未来学部の長谷川洋昭教授=2023年3月、川崎市

保護司が作成して毎月、保護観察所に提出する「保護観察経過報告書」(手前)。保護観察対象者との接觸の状況や面接の内容などを記すものになっている=長谷川さん提供



「更生」とは何なのか。大学の授業では必ず、覚醒剤使用の罪で服役した別の元受刑者の話を聞く。「おれ覚醒剤を使ったことは全然悪いとは思ってません。あれほど便利なクスリはありませんよ」「じゃあまた手を出す?」と聞くと、「やりたいけど、絶対やりません」。その理由をこう答えたという。

「いろいろと損をするからです。家族や彼女を悲しませてしまつたことがつらかった。働いていた会社の社長に迷惑をかけたのに、またこいつは裏切れません」

「いろいろと損をするからです。家族や彼女を悲しませてしまつたことがつらかった。働いていた会社の社長に迷惑をかけたのに、またこの新宿19の会」を立ち上げ代表を務める。毎月19日に開く食事会には、元受刑者や支援者、警察官らが集まり、ざっくばらんに語り合う。

立直りとは、「手の伸びし方を知ること」ではないかと考える。だから元受刑者たちにはいつも言う。「何かあったら、とにかくおれの顔を思い出してください」(島崎周)

現場へ!

冷え込みが厳しい冬の夜。またまたま立ち寄ったコンビニで、見覚えのある30代の男性が出てきた。

保護司の長谷川洋昭さんは(52)にとって、2年ぶりの偶然の再会だった。男性は、覚醒剤を使用した罪で服役して

いた元受刑者。仮釈放後の半年の保護観察期間、生活状況を聞くなどしていた。

男性は半泣き状態で、駆け寄ってきた。「先生! やっぱり先生とは運命です!」「どないしたん?」「今から人を殺しに行こうと思つて、カッターナイフを買つたんです」

男性は借金をした知人に返済したのに、さらに金を要求され、知人は男性の前科のことも周囲に触れ回っているようだつたという。

近くの喫茶店で1時間ほど

長谷川さんが保護司になつたのは2013年。もともと警察官を志していたこともあり、犯罪者に対しては憎しきる感情を持っていた。

これまでに、薬物を使用した罪で服役した受刑者や元暴力団員ら約20人と向き合つてきた。月2回、自宅に招いて1時間程度の面談をする。同じ地域住民であることを認識してもらうという。

犯した罪については必要以上に問い合わせない。「再犯をとどめるのは、反省より人のつながり」と思うからだ。

学生に問う。「この人は更生していると思う?」。学生たちの回答は、「更生していない」「更生していない」で、ほぼ半々に分かれている。

長谷川さんは、内心と行動は分けた考えが必要があるとする。「反省は必要な要素だが、再犯したら意味がない」が、再犯したたら意味がない。保護司として関わるのは、定められた保護観察期間だけ。その後もフラットな関係を築ける場を提供できないか。そんな思いから16年、新宿周辺で更生保護に関心のある人や当事者の交流の場として「新宿19の会」を立ち上げ代表を務める。毎月19日に開く食事会には、元受刑者や支援者、警察官らが集まり、ざっくばらんに語り合う。

人とのつながり 再犯防ぐ

「立ち直り」を考える④

「いろいろと損をするから

です。家族や彼女を悲しませ

てしまつたことがつらかつ

た。働いていた会社の社長に

迷惑をかけたのに、またこ

うやつて雇つてくれている。

もう裏切れません

みの気持ちが強かつた。だ

が、大学などで福祉を学ぶう

ちに、「彼らが更生したら

新しい被害者は生まれないか

もしれない」と思うようにな

った。更生保護を専門に、田

園調布学園大子ども未来学部

の教授も務める。

これまでに、薬物を使用し

た罪で服役した受刑者や元暴

力団員ら約20人と向き合つて

きた。月2回、自宅に招いて

1時間程度の面談をする。同

じ地域住民であることを認識

してもらうという。

犯した罪については必要以

て上に問い合わせない。「再犯を

とどめるのは、反省より人の

つながり」と思うからだ。

学生に問う。「この人は更生していると思う?」。学生

たちの回答は、「更生してい

る」「更生していない」で、

ほぼ半々に分かれている。

長谷川さんは、内心と行動

は分けた考えが必要があると

する。「反省は必要な要素だ

が、再犯したら意味がない

。保護司として関わるのは、

定められた保護観察期間だけ。その後もフラットな関係

を築ける場を提供できない

か。そんな思いから16年、新

宿周辺で更生保護に関心のあ

る人や当事者の交流の場とし

て「新宿19の会」を立ち上げ

代表を務める。毎月19日に開

く食事会には、元受刑者や支

援者、警察官らが集まり、ざ

っくばらんに語り合う。

立直りとは、「手の伸び

し方を知ること」ではないか

と考える。だから元受刑者た

ちはいつも言う。「何かあ

ったら、とにかくおれの顔を

思い出してください」(島崎周)